

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	438	3年	後期	臨床検査学科	必修	生理機能検査学実習Ⅱ Practice in Clinical Physiology Ⅱ	45	1
担当教員								
岡村 法宜	瀧 智子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
<input type="radio"/>	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
生理機能検査は人間を直接検査するため、被検者への対応と検者の技量が検査結果に大きく影響する。各種検査機器を使用して実習を行い、自らが検者・被検者を経験することで、検査に応じた適切な被検者対応と技術を身につけ、実践できるようになる。								
到達目標（授業目標）								
①生理機能検査に必要な被検者にあわせた対応ができる。								
②動脈硬化と動脈閉塞の検査を実施し鑑別できる。								
③頸動脈エコーで描出される各動脈が鑑別できる。								
④神経伝導検査に必要な各神経の刺激部位を特定できる。								
⑤平衡機能検査の概要を説明し、実際に実施することができる。								
⑥味覚・嗅覚検査の特徴を説明し、実際に実施することができる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								

授業概要	第1・2回 オリエンテーション：生理機能検査を実施するために必要な被検者対応と機器の使用法を学習する。（担当：岡村・瀧）
	第3・4回 ABI・baPWV：血圧脈波検査の原理と検査時の注意と検査法および検査結果の解釈について学習する。（担当：瀧）
	第5・6回 心肺運動負荷試験：心肺運動負荷試験時の注意と検査後の解析法及び解析結果の解釈について学習する。（担当：岡村）
	第7～9回 頸動脈エコー：クリアな頸動脈エコーを描出する工夫と計測法及び計測結果の解釈について学習する。（担当：瀧）
	第10～12回 誘発筋電図：運動神経・知覚神経の伝導速度測定法とH反射、F反射検査の方法と結果の解釈について学習する。（担当：岡村）
	第13・14回 サーモグラフィー：末梢循環障害と自律神経症障害の評価に有効なサーモグラフィー検査について学習する。（担当：瀧）
	第15・16回 眼底検査：無散瞳眼底撮影の方法とアーチファクトと病変の鑑別等について学習する（担当：瀧）
	第17～19回 平衡機能検査：平衡機能障害の鑑別に有効な重心動揺検査と電気眼振図検査について学習する。（担当：岡村）
	第20・21回 味覚検査：テストディスク法による味覚検査の手技と解釈について学習する。（担当：岡村）
	第22・23回 TTオルファクトメーターによる嗅覚検査の手技と解釈について学習する。（担当：岡村）

成績評価方法及び基準

各実習後に提出するレポートを評価する（60％）。定期試験では、実習で学習したことが定着しているか評価する（40％）。レポートと定期試験をあわせて60点以上を合格とする。

教科書	実習前に実習書を配布する。
-----	---------------

参考図書等	東條尚子・川良徳弘編「最新 臨床検査学講座 生理機能検査学」（医歯薬出版）
-------	---------------------------------------

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

必ず事前に実習書を熟読し、各実習項目の目的を理解しておいてください。また、生理機能検査学Ⅰ・Ⅱで配布した資料と参考図書を使って実習項目について予習し、疑問点を整理しておきましょう。実習後はレポート作成を通して学習してください。

関連科目

前科目	435	生理機能検査学Ⅰ	436	生理機能検査学Ⅱ	444	臨地実習Ⅰ				
後科目	447	医学検査診断学Ⅰ	448	医学検査診断学Ⅱ	449	医学検査研究				

実務家教員

臨床検査技師（医療機関）	瀧 智子								

備考	疑問点はオフィスアワー（学生専用ページから曜日時間を確認のこと）を活用して質問しに来てください。
----	--